

2020年4月7日

新型コロナウイルス感染症流行時の眼科手術に対する考え方（現時点）

— 眼科医療関係者へ —

新型コロナウイルス感染者が急増し、どの地域でも未診断もしくは無症候性の患者と遭遇する確率が高まっています。白内障手術のために来院あるいは入院された患者が、術後に新型コロナウイルス肺炎を発症した例が報告に上がってきました。手術中あるいは、手術前後には、無症候性であっても患者から医療関係者へ、新型コロナウイルスが感染するリスクがありますので、以下に、眼科手術のリスクに関する「考え方」を示します。最終的な判断は各施設の責任者あるいは執刀医に委ねられますが、感染が広がった当該施設ではすべての眼科診療は停止となりますので、眼科診療の必要な国民への影響は少ないと考えます。以下はその参考としてください。

1. 一般的な眼科手術のリスク

新型コロナウイルスの感染患者においては、鼻腔や咽頭にウイルスが存在する可能性が高く、このため鼻咽頭の手術において電気ドリルや電気メスによりエアロゾル発生の可能性があり、ウイルスが手術室に拡散するリスクが懸念されています。また涙液を介する感染のリスクも指摘されています。

通常の内障手術をはじめ緑内障手術、硝子体手術などにおいて、眼科手術中に患者から医療関係者へ、新型コロナウイルスが感染する可能性は高くないと考えられます。しかし、手術前後に未診断もしくは無症候性の患者から、感染が広がるリスクを否定できません。

軽症の未診断患者、もしくは無症候性の患者が国内で多数存在することを鑑み、今一度、地域を問わず十分な対策をとることを推奨します。

2. ハイリスクと推定される眼科手術

眼窩手術のなかで鼻咽頭と交通する手術で電気ドリルや電気メスを用いる場合には、エアロゾル発生の可能性があります。悪性が疑われるなど緊急性を有して延期が困難な場合には、患者の希望と施設の方針に合わせて決定してください。

涙道手術においても鼻粘膜との機器の接触が起こり得ます。新型コロナウイルスの存在しうる鼻咽頭からのエアロゾル発生を否定できないため、悪性を除き、手術の延期が推奨されます。

3. 緊急を要する眼科手術について

網膜剥離、急速に悪化する緑内障、眼外傷、膨隆白内障などの急速な悪化もしくは合併症

を引き起こす白内障、感染性疾患（眼内炎など）、網膜芽細胞腫などの悪性疾患、角膜移植は緊急性が高いと考えられます。

一般的な成人の白内障手術については、延期の可能性を患者および地域の状況に応じて検討してください。

4. 術前後の通院における注意

手術直前に当該患者の健康チェックを行い、発熱（37.5 度以上）、咳や痰、全身倦怠感、味覚・嗅覚障害などの症状がある場合は、コロナウイルス感染が疑われることから手術の中止を検討してください。術前・術後の診察において、外来待合や中待合では、待機する患者間の距離を十分にあけることを考慮してください。マスク着用など咳エチケットを徹底し、家族の付き添いも必要最低限とすることが望ましいでしょう。

なお、すでに予定された手術の延期については、患者にその理由やリスクを十分に説明したうえで最終的に判断してください。

新型コロナウイルス感染症眼科対策会議

公益財団法人日本眼科学会

理事長 寺崎 浩子

公益社団法人日本眼科医会

会長 白根 雅子

日本眼感染症学会

理事長 外園 千恵